

入浴介助の負担軽減と質の両立 現場で進む介護テクノロジー活用

介護テクノロジー

入浴支援

湯船に代わり全身を温める
次世代入浴支援機器「ボディハグシャワー」

田中秀治会長

導入当初は職員が湯船や
アームの位置を調整してい

職員は業務負担にも変化が
導入前と比べ、利用者を抱え上
げたり不安定な姿勢で身体を支
える機会が少なく、腰痛や
労災の発生率が減少した。田
中会長は「介助の負担が全くな
くなるわけではないが、職員が
無理をするとは減った。身体
的負担による離職を防げるだけ

ソレイミナレは半日型
1日2回転で定員18人のデイ
浴槽のみ入浴介助を行ってい
た頃は、半日対応できる人数
が4人程度に限定されていた。
ボディハグシャワーの導入後は
職員がハンドシャワーで湯をか
け続けたり、浴槽の湯の入替え
に費やす時間が削減。6人ほど
が入浴できるようになった事業

ケアマネジャーも注目する
本人が通いたくなるデイ
いと思える場所」をコンセプト
に事業所を展開。カフェのよう
な落ち着いた内
装、一般的な
レクリエーショ
ンが行わず、リ
ハビリ専門職を
配置した個別機
能訓練、マシン
トレーニングが
中心のプログラ
ムを提供するな
ど、従来型のデ
イサービスとは
異なる空間づく

あたたかみのある照明のもと、カフェ
スペースのような空間とマシンが並ぶ

関東を中心に全国で介護事業
所を展開するHLC(横浜市、
田中秀治会長(写真))は、リ
ハビリ特化型デイサービスフ
レイミナレでボディハグ
シャワーを導入している。
最大の目的は、入浴介助によ
る職員の腰痛やケガの防止。足
元が濡れてすべりやすい浴室
で、利用者の身体を支えたり踏
ん張った際に、ぎっくり腰や転
倒が発生することがあった。そ
こで職員の負担軽減に向け、ボ
ディハグシャワーを導入。狙い
どおり介助者の負担が大幅に軽
減し、利用者は身体が短時間で

ソレイミナレ
(HLC)デイ21カ所で導入
効率化とQOLをともに実現2本のアームから出るお湯
が全身を包み込み、短時間
でも身体が温まると好評

入浴できる利用者が
4人から6人へ

でも導入する意義は大きい」と
評価する。

ケアマネジャーも注目する
本人が通いたくなるデイ

いと思える場所」をコンセプト
に事業所を展開。カフェのよう
な落ち着いた内
装、一般的な
レクリエーショ
ンが行わず、リ
ハビリ専門職を
配置した個別機
能訓練、マシン
トレーニングが
中心のプログラ
ムを提供するな
ど、従来型のデ
イサービスとは
異なる空間づく

ケアマネジャーも注目する
本人が通いたくなるデイ

いと思える場所」をコンセプト
に事業所を展開。カフェのよう
な落ち着いた内
装、一般的な
レクリエーショ
ンが行わず、リ
ハビリ専門職を
配置した個別機
能訓練、マシン
トレーニングが
中心のプログラ
ムを提供するな
ど、従来型のデ
イサービスとは
異なる空間づく

ケアマネジャーも注目する
本人が通いたくなるデイ

いと思える場所」をコンセプト
に事業所を展開。カフェのよう
な落ち着いた内
装、一般的な
レクリエーショ
ンが行わず、リ
ハビリ専門職を
配置した個別機
能訓練、マシン
トレーニングが
中心のプログラ
ムを提供するな
ど、従来型のデ
イサービスとは
異なる空間づく



既存の浴室にも最短60分で設
置可能。機械浴槽と比べて、初
期投資が抑えられる点もメリッ
トだ。ウェア上で設置診断を受
けられるほか、現地調査も行っ
ている(写真も無料)。
住宅のほか、130カ所以上の
介護施設・事業所、医療機関
でも導入済み。ホテルのユニ
バーサルルームなど、バリア
フリー対応やケアの質向上を目
的とした幅広い現場で活用が広

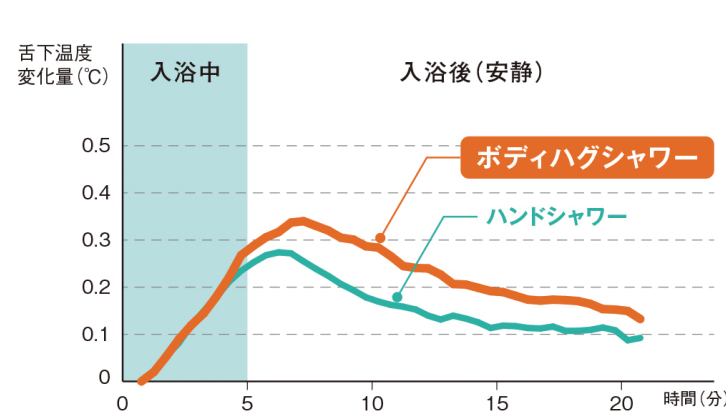
腰痛負担軽減、入浴
時間の有効活用も

テクノロジー補助金を活用しよう

ボディハグシャワーは、「介護テクノ
ロジー定着支援事業」を活用して導入し
たケースも一部ある。

同事業では、テクノエイド協会の
TAISで「介護テクノロジー」に選定され
た機器を原則補助対象としている。補
助額は、対象経費に補助率を乗じた額と、
機器ごとに定められた基準額のいずれか
低い額。「入浴支援」機器の基準額は1
台あたり100万円。

現在、東京都を含む21都県で申請を
受付中。募集期間や対象経費、申請要件、
採択方法などは各都道府県の実施要綱を
確認したい。

TAIS「ボディ
ハグシャワー」
掲載ページケアニュース
補助金ページ【測定条件】室温22℃、湯温42℃、入浴時間5分間、シャワー流量9L/分 ※自社調べ
浴槽満水での全身入浴 ※自社調べ最上部・最下部のノズルからはピンポイントに、
中央部からは霧状にやさしく吐水する

転倒・転落するおそれもあり、
心理的負担も大きい。
ボディハグシャワーは、シャ
ワーキャリーや車いすに座った
まま使用できるため、抱え上げ
や立位保持などの動作が減少。
移乗時の転倒やふらつきに対す
る不安の軽減にもつながる。
また、一般的なシャワー浴で
は職員がハンドシャワーを持
ち、利用者の身体が冷えないよ
う温水をかけ続けることも多
い。一方、同機器は複数のノズ
ルから全身に温水が行き渡るた
め、職員がシャワーを持ち続け
る必要がない。利用者の身体を
温めながら洗身を進めるなど、
限られた入浴時間を有効に活用
できる。

シャワーだけで身体の中まで温まる

全く新しい入浴体験。

介護テクノロジー認定商品 (TAISコード: 00203-000190)

BODY HUG SHOWER

ボディハグシャワー

現地調査のお申込み(無料)はこちら

